

ボランティア講座2025

障がいのある子どもと関わる

ていんさぐの会 酒井 洋(理学療法士)

1

「こども」を理解する視点

「どんな障がいだろう？」 **ではなく**
「どんなこどもだろう？」 **という視点**
たとえば、Aくん 5歳 脳性麻痺

歩けないの？
お話できないの？

→

かわいいね！
おとなしいね！
アンパンマンが好きなのかな？

2

「障がい」を理解する視点

「何が原因なんだろう？」
「何ができないんだろう？」 **ではなく**
「何が困っているんだろう？」
「どうすれば楽しく参加できるかな？」 **という視点**

↓

ボランティアの役割は
「参加」を支援すること

3

Aさん:5歳 あお向けだけど、楽・・・？



初めての出会い
↓
からだも気持ちも緊張している
↓
どうすれば楽になる？

4

緊張を和らげるには？

心の
リラックス

どんな場所で
↓
どうかかわり

→ 「環境」
→ 「関係性」

身体の
リラックス

何を使って
↓
どうする

→ 「道具」
→ 「技術」

5

緊張を和らげるかかわり方

～遊泳介助を例に～

6

環境



7

関係性：関わり方(コミュニケーション)の基礎

- 普通のことばかけ：こどもの年齢相応に
- サインを読み取る：目、表情、動き、緊張
- ことばで返す：こどもの感覚、感性を
解釈して、共感し、代弁する

8

道具1



9

道具2



10

道具3



11

技術：安心と安全の技術

- 水の苦手な子、嫌いな子もいる
- 不安がる子どもは抱っこで密着、笑顔で
- 介助者に適した水深と波に配慮
- 気管切開から水が流入しないように細心の注意をはらう⇒慣れた人が行う
- 必要最小限の支えで浮遊感を味わう
⇒特に動きの少ない子の自発運動の経験として
- 安心と安全の技術は笑顔を生む

12

技術1: 水が苦手、嫌いな子



13

技術2
安心



14

技術3: 安全 気管切開部から水が入らないように



15

技術4: 必要最小限の介助で浮遊感を味わう



16

技術5: 目標は笑顔



17



18